

会派代表質問

市民が困ったとき、本当に役立つ
市政を私はつくりたい！

新政ネット

石渡 登志男 議員



今から8年前、住民の皆様方が無名の私を議会に送り出してくださいました。私は何も無い状態であったが、そんなとき駅にてお会いする女性の方からお手紙をいただいた。「私たちが家族は貴方を知っています。気がつけば貴方は毎朝大網駅に立ち、熱い思いを腹の底から声に出して、駅に吸い込まれていく何十人、いや何百人もの人々に向かって語りかけていた。駅から通勤する人たちの中には、駅に立つ貴方に対して少なからず心が動いた人もいます。私たち家族は貴方に期待しています。大網白里を心から愛し、思い、未来に向かって心豊かなまちをつくらせてくださる事を。どんなに辛い毎日でも貫き通すしんの強さと、謙虚で嘘のない人柄が人の心を動かすのではないのでしょうか。結果はどうあれ、当選したら、そこからがスタート、今までより苦しい毎日になるでしょうが応援しています。万一残念な結果になろうと人生のかすり傷と思っ、またはい上がってきたら、ぜひまた応援させていただきます。では仕事に行ってください。私はこの手紙を読んでいたとき涙で字が読めなくなりました。そして駅の誰もいない所でずっと一人で泣いた。ひとり始めた活動ではあったが、今ではたくさんの方々の支えのおかげで約8年間、私利私欲を捨て、市民の幸せと市の発展のために全力を尽くしてきた。市民のご相談も既にごとに通信を発行し続け、私の一週間ごとの議員活動のお知らせや徹底した市の情報開示を行ってきた。今では近隣自治体を含め本市最多の第三

百七十二号まで発行となった。市民の方から「石渡としお通信で市政に初めて興味を持つようになった」と「石渡さんの議員活動がよくわかる」等々を言われ大変嬉しく思っています。またよくわからないのだが、数年前より本市だけでなく、近隣自治体住民からのご相談も受けるようになった。他の自治体の住民から「石渡さんがうちのまちの議員だったらいいんだけど」など言われたが、ただ、私はあくまで大網白里市の議員、本市の方々のためにその全てを尽くしていかなければならない。本日は万感の思いを込め、石渡登志男任期最後の一般質問を行いたい。

問 みずほ台の防災バスターの来年度開催について。バスターの利用規則が改正され、職員の勤務時間内の運行となったが、防災バスターという都合上、開催は土日でないという無理がある。それについて如何か。

答 土日は市有バスターの運休日となりました。自主防災組織の方には改正理由をご理解の上、先ずは平日利用を検討していただきたいと思います。やむを得ず土日使用でのご希望の場合、早めに協議していただければ、ご希望に沿えるよう検討いたします。

問 今の言葉をお聞きして安心した。市民の真剣なる防災活動に対して、市が間違っても水を差すようなそんなことがあってはならない。次に災害時の避難所生活における間仕切り等はどれくらいあるのか。

答 簡易間仕切り百セット、床に敷くロールマットを38本備蓄しております。

災害時、本市の方が体育館の冷たい床の上に、プライベートも何もない雑魚寝状態では女性や高齢者も

困る。過去の大地震での避難所生活で高齢者の方が亡くなったたり、救急車で運ばれるというケースが多い。この平穩のときにこそ、しっかりと市に考えていただきたい。少しでも数を多く増やしていただきたい。

問 厳しい財政状況についてはわかってはいるが、では、その状況をつくり出した大きな要因は何か。

答 歳入では市税の半分程度を占めます。個人市民税の伸びが期待できなく、近隣市に比べて企業等の数が少ない為、類似団体と比較して自主財源が乏しい脆弱な財政基盤となっております。歳出では、大型事業を集中的に実施したこと、経営状況の悪化に伴い大網病院への繰り出しの増加などから、ここ数年これら事業に関する経費が大幅に増加しております。

問 ではどう立て直していくのか。

答 新規事業の凍結や公共施設の統廃合による経費削減、企業誘致や都市計画税の導入検討、市債の発行や基金の取り崩しの抑制等を図る必要があります。

これ以外にみどりや丘の商業誘致や市民サービスの低下抑制、入札における改善チームの提案を行った。

あります。そこで本市においては、今後どのようにして取り組んでいくのかお尋ねいたします。

答 管理不十分な空き家に対し、市条例及び空き家対策特別措置法の規定により、適正に管理するよう助言指導を行うとともに、空き家バンクの案内もあわせて送付するなど、空き家の利活用の促進も図っています。その空き家バンク制度を開始し現在までに数件の成約もあり、また、近隣住民に著しい危険を及ぼす恐れのある空き家については、特定空き家に認定した上で、所有者による自主的な空き家の解体、撤去に至った案件もあります。

このように、個別の施策により空き家対策を進めているところでありますが、今後は空き家対策計画の策定に向けて検討していきたい。

問 本市においては、津波発生時には千葉県が指定する緊急輸送道路は2路線あります。県に指定されたその道路は、今年4月からは全線が新たな電柱設置を原則禁止したそうです。また、県では緊急輸送道路約1,400キロを電柱新設の禁止区域にしたとあります。そこで、市が指定する緊急輸送道路は2路線ありますが、その道路とはどのようなものか。

答 緊急輸送道路は、災害発生時に被災者の救助・救援をはじめ、物資輸送等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保するため一般車両の通行禁止措置がとれるなど重要な路線であります。本市においては、千葉大網線、山田台大網白里線の2路線が指定されております。

市が指定する2路線、特に海岸から大網駅を結ぶ山田台大網白里線は、市にとっては大動脈でありますので、県指定の緊急輸送道路と同じような位置付けをされるようお願いいたします。

この他に、避難所施設の整備について質問しました。

環境省が5月に発表した平成29年度一般廃棄物の排出及び処理状況の調査結果によると、一般廃棄物処理施設は全国で1,103施設。ごみの総排出量は4,289万トン。東京ドームに換算すると115杯分です。1人1日当たりのごみの排出量は920グラムの計算になります。排出量は、ここ数年、減少傾向にあります。ごみの減量化をさらに進めることにより、今計画しているごみ処理施設の建設費やランニングコストの削減ができると思います。

いま新施設建設を進めているときにだけに「廃棄物とは何か」「資源の循環をすることはどういうことか」「廃棄物は目の前から消えればよいのか」「廃棄物処理と環境の安全、安心して住み続けられるまちづくりはどのようにあるべきか」などについて、住民と自治体が真剣に考えるよい機会となるのではないのでしょうか。

問 施設の総建設費や国の交付金額、本市の負担割合についてご答弁を。

答 本体部分にあたるごみ処理施設及びマテリアルサイクル施設の建設費が、およそ135億円から140億円。そのうち国の交付金が約38億2,600万円。そのほかの用地買収費や地元対策費などの経費が15億円から20億円と見込まれており、合計でおおよそ150億円から160億円と試算されているところです。

本市の負担額は、平成30年度の新施設建設費構成団体割、均等割が10%、応益割、ごみの搬入量から60%、人口割が30%を用いて算定すると約37%となり、約40億円になります。なお、千葉県からの費用負担はございません。

大変な金額がかかる。ある程度の

個人質問

ごみ処理施設建設を計画している
いま、ごみ減量化に取り組むとき

佐久間 久良 議員



施設を計画すれば、この金額になるということですが、小さい施設にすることで、縮小させることは可能だと思います。ごみを減量すれば、それだけ大きな施設は必要なく、建設費やランニングコストも減ります。

問 環境クリーンセンターの過去5年間のごみの推移と今後の予測について伺います。

答 ごみ量推計は、平成29年度に作成した一般廃棄物処理基本計画で、過去5年間の推移及び新施設始動時の予測を行っており、過去5年間のごみ量は少しずつ減少している状況であり、施設始動時の予測は、国が掲げる目標値（令和14年度までに平成24年度比総排出量17%減）を考慮する中で、ごみ量が減少する予測を立てています。

問 17%というのは、少ないように感じます。もっと2割とか3割とか減らしていくべきではないのか。

新施設の建設は、全て大網白里市だけで決められません。大網白里市だけでごみの減量化を進めても、他の市町との、足並みがそろわないと、絵に描いた餅にしかありません。市長として、他市の首長との意見をまとめ建設規模を小さくしていくというお考えはあるのか伺います。

答 市民一人ひとりが意識をして、少しでもごみを減らしていくことは大変重要なことと考えています。構成各市町も、それぞれごみの減量化に向けてさまざまな取り組みを進めています。新施設の建設を契機に、東金市、九十九里町とも密接に連携を取り組んでまいりたいと考えております。

関連質問

堀本 孝雄 議員

問 本市における空き家数はどのくらいありますか。

答 現在把握している空き家数は約400軒であります。

問 世帯数の減少と総住宅数の増加に伴って、2033年には、空き家数は全国で2,166万戸（率で30.4%）になる見通しを、民間シンクタンクの野村総合研究所が予想されております。本市の人口ビジョン推計においても、2040年には4万人くらいになると言われております。当然のこと空き家数は増えるわけ